

教員名	庄司 惠雄 (SHOJI Yoshio)
所 属	国際教育センター
学 位	国際学修士
職 名	教授
URL/E-mail	<a href="http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/shoji.html">http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/shoji.html</a> / <a href="mailto:shoji@cc.ocha.ac.jp">shoji@cc.ocha.ac.jp</a>

## ◆研究キーワード

言語テスト(日本語口頭能力測定) / 地域日本語ボランティア活動 / 大使館推薦留学生に対する予備教育としての日本語教育

## ◆主要業績

総数 (9) 件

- ・「パフォーマンス評価—口頭能力をどうとらえるか—学習者のための口頭能力テストは可能か」単著  
2005年度日本語教育学会秋季大会シンポジウム「言語能力を多角的に評価する」シンポジスト 2005年10月
- ・「外国籍地域住民・日本人住民相互学習のための日本語学習用ビデオ教材の開発 研究成果最終報告書」単著  
平成16年度学術振興会科学研究費研究報告書(p. 1-44) 2006年3月
- ・「合本 留学生歌集『歌心』・留学生句集『留香』」編著 お茶の水女子大学国際教育センター(24頁) 2006年3月

## ◆研究内容

### ・地域の多文化化に対応するボランティアの日本語活動のあり方に関する研究

多文化状況が日々進行しているこの国の各地域において、日本人市民のボランティア活動が占める社会的意味は重大である。その活動の内実をより人間的な平等感覚に基づいたものにする必要があるが、ともすれば日本人の価値観を基準にしたエスノセントリックな活動に陥りがちであることから、外国人・日本人が日本語を共通項として相互交流をはかるためのビデオ教材の開発を試みた。

### ・日本語口頭能力試験の開発に関する研究

現行の日本語能力試験に口頭能力を測定する分野が含まれていないことから、試験の改善が急がれている。新しい課題を日本語能力試験に組み入れるための基礎研究として、2005年度は、日本語を母語としない日本語教員に口頭能力を判定することが可能かどうか、その現実性を探るため、中国・台湾・フィリピン・タイ・米国・メキシコ・ブラジルの日本語教育機関において調査を実施し、一定の資格要件を満たすかどうかを検定するシステムを確立すれば、日本語を母語としない教員にも、日本語の口頭能力を判定することが可能なことが判明した。

### ・大使館推薦研究留学生のための予備教育としての日本語教育に関する研究

お茶の水女子大学では、該当留学生の受け入れが行われなかったため、実践的研究は実現しなかった。他大学における予備教育を見学するなどにより、資料収集を行った。

## ◆教育内容

<外部留学生・研究生向け>

### ・日本語中級

日本語能力試験 2級合格を目指す留学生・研究生を対象に、日本人の著になるテキストを読むことから始め、他の3技能の向上をも目指す。

### ・日本語初中級

アフガニスタンからの大学院留学生を中心とした受講生に対して、日常会話を中心として、コミュニケーション能力を養成する。

### ・日本語演習Ⅱ「日本語口頭表現」

学部留学生及び日研生、研究生らを対象に、前期は単独の発表形式のスキルを、後期は対話・討議・議論など、インターアクションを含む口頭表現のスキルを訓練する。

### ・日本事情演習Ⅱ「日本の短詩形」

学部留学生・日研生・研究生を対象に、前期は短歌、後期は俳句を取り上げ、その歴史的背景を学習したのち、多数の作品鑑賞を行うとともに、実際に作歌・作句を行い、発表する。期末に作品を集大成する。

<大学院向け>

### ・言語テスト特論 講義・演習

2005年度は開講せず。

